

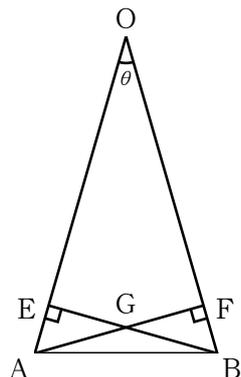
▶SSH 課題探究 ◀

2.5

OA = OB を満たす二等辺三角形 OAB において、頂点 A, B からそれぞれの対辺またはその延長上に引いた 2 つの垂線の交点を G とする。OA = \vec{a} , OB = \vec{b} , $\angle AOB = \theta$ とおく。

- (1) $\vec{OG} = s\vec{a} + t\vec{b}$ を満たす s, t を θ を用いて表せ。
 (2) 点 G が三角形 OAB の外部または周上にあるときの θ の値の範囲を求めよ。

【参考】 金子海渡君のレポートより



- (1) OA = OB = 1 とする。

$$OE = OB \cos \theta = \cos \theta$$

$$OF = OA \cos \theta = \cos \theta$$

これより、

$$\begin{cases} \vec{OE} = (\cos \theta)\vec{OA} \\ \vec{OF} = (\cos \theta)\vec{OB} \end{cases}$$

とおける。

また、

$$EG : GB = (1 - s) : s$$

$$FG : GA = (1 - t) : t$$

とおくと、(注意：この s は問題文の s とは別のもの)

$$\vec{OG} = (1 - t)\vec{OA} + t\vec{OF}$$

$$= (1 - t)\vec{OA} + (t \cos \theta)\vec{OB}$$

$$\vec{OG} = s\vec{OE} + (1 - s)\vec{OB}$$

$$= (s \cos \theta)\vec{OA} + (1 - s)\vec{OB}$$

\vec{OA} と \vec{OB} は平行なベクトルではないので、

$$\begin{cases} 1 - t = s \cos \theta \\ t \cos \theta = 1 - s \end{cases}$$

$$\therefore (1 - s \cos \theta) \cos \theta = 1 - s$$

$$\therefore (s \cos \theta + s - 1)(\cos \theta - 1) = 0$$

ここで、 $0 < \theta < \pi$ なので、 $\cos \theta \neq 1$

よって、

$$s = \frac{1}{\cos \theta + 1}$$

また、 $\vec{OG} = (s \cos \theta)\vec{OA} + (1 - s)\vec{OB}$ より、

$$\vec{OG} = \frac{\cos \theta}{\cos \theta + 1}\vec{OA} + \frac{\cos \theta}{\cos \theta + 1}\vec{OB}$$

$$= \frac{\cos \theta}{\cos \theta + 1}\vec{a} + \frac{\cos \theta}{\cos \theta + 1}\vec{b}$$

と表せる。

これより、 $\vec{OG} = s\vec{a} + t\vec{b}$ を満たす s, t は、

$$s = t = \frac{\cos \theta}{\cos \theta + 1}$$

- (2) 点 G が $\triangle OAB$ の外部または周上にあるとき、

$$s \leq 0, t \leq 0, s + t \geq 1$$

である。

- (i) $s \leq 0$ または $t \leq 0$ のとき、

$$\frac{\cos \theta}{\cos \theta + 1} \leq 0$$

よって、

$$-1 < \cos \theta \leq 0$$

$$\therefore \frac{\pi}{2} \leq \theta < \pi$$

- (ii) $s + t \geq 1$ のとき、

$$\frac{2 \cos \theta}{\cos \theta + 1} \geq 1$$

よって、

$$\cos \theta \geq 1$$

このとき、 $0 < \theta < \pi$ をみたす θ は存在しない。

- (i), (ii) より、

$$\frac{\pi}{2} \leq \theta < \pi$$

【解説】 点 G が $\triangle OAB$ の内部にあるとき、

$$\begin{cases} \vec{OG} = s\vec{OA} + t\vec{OB} \\ s + t < 1 \\ s > 0, t > 0 \end{cases}$$

と表せることを学習している。これを否定して、点 G が $\triangle OAB$ の外部または周上を表すのは、

$$s \leq 0 \quad \text{または} \quad t \leq 0 \quad \text{または} \quad s + t \geq 1$$

である。

記号の注意：「,」は「かつ」「または」の相反する言葉に対して同じ記号で扱う。

実数 x, y に対して、

$$(x - 2)(y - 3) = 0$$

$$\therefore x = 2, y = 3 \quad (x = 2 \text{ または } x = 3)$$

$$(x - 2)^2 + (y - 3)^2 = 0$$

$$\therefore x = 2, y = 3 \quad (x = 2 \text{ かつ } y = 3)$$

である。少なくとも頭の中では「かつ」「または」を声を出して読みたい。

内藤信太郎君は、(1) で、 $\vec{OE} = u\vec{a}$, $\vec{OF} = u\vec{b}$ とおいて、 $\vec{OA} \cdot \vec{EB} = 0$ より、 $\vec{a} \cdot (\vec{b} - u\vec{a}) = 0 \therefore \vec{a} \cdot \vec{b} - u|\vec{a}|^2 = 0 \therefore u = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}|^2} = \cos \theta (\because |\vec{a}| = |\vec{b}|)$ として、 $\vec{OE} = (\cos \theta)\vec{a}$, $\vec{OF} = (\cos \theta)\vec{b}$ と求めている。これは、鋭角三角形、鈍角三角形、直角三角形などの形状に関係なく使える。

ただ、図形的に求めることを恐れてはいけない。数 C の分野では、三角形をつかいて極方程式を求めることはよくあることである。